

令和 2 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

令和 2 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ	1
2. 地域医療支援センター長あいさつ	2
3. スタッフ一覧	3

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要	4
2. 活動報告	
I. 県内における医師不足の状況などの把握・分析	5
II. 医師不足医療機関の支援	8
III. 医師が循環して勤務できるシステムの構築	9
IV. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の キャリア形成支援	10
V. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応	11
VI. 県内医療関係機関との協力関係の構築	13
VII. その他	14
VIII. 女性医師キャリア支援	16

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要	24
2. 年間活動実績	24
3. 活動報告	
I. 地域医療支援（診療支援）	25
II. 調査・研究	25
III. 教育活動	26
卒前教育（カリキュラム内教育）	26
卒後教育（初期臨床研修・専門医研修）	31
IV. 指導医養成	37
V. 講演会	38

4 教育拠点

<玉名教育拠点>

1. 活動概要	40
2. 年間活動実績	40
3. 活動報告	
I. 教育活動	41
II. 診療	43
III. 年間診療報告	43



<天草教育拠点>

1. 活動概要	44
2. 年間活動実績	44
3. 活動報告	
I. 教育活動	44
II. 診療	45
III. 年間診療報告	45

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	47
II. 活動報告	47
2. 令和2年度卒業生	49

6 業績

1. 地域医療支援センター	52
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	53
3. 玉名教育拠点／天草教育拠点	55
4. 専攻医	55

7 おわりに

1. 教員から	56
2. 事務から	61
3. あとがき	63

はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

谷原 秀信

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和2年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

熊本県地域医療支援機構は、平成25年12月に設置され7年目が経過しました。また、地域医療・総合診療実践学寄附講座は、平成28年4月から平成31年3月の3年間に引き続き、平成31年4月から3年間で同寄附講座として継続し、本年度2年を経過しようとしています。

さて、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の年といっても過言ではなく、世界中で猛威を振るい、様々な分野で人々の活動がこれまでと一変する事態となりました。国内では、令和2年1月28日「指定感染症」に指定され、熊本県下においては、同年2月22日、第1例目の新型コロナウイルス感染症の陽性者が判明し、以後3,400人を超える感染者が確認されています。本県のみならず、日本の社会全体の機能が多大な影響を受けた一年でした。

このような状況下において、地域医療支援機構事業、寄附講座事業についても当初の計画の中で中止、変更、縮小といった決断をせざるを得ない状況もあり、十分な取組みが出来なかった面もありました。しかしながらコロナ禍にあっても本県における医師の地域偏在の解消という目的のため、その歩みを止めることなく、できることを一つ一つ着実に取組んでまいりました。令和2年度は、天草市と、天草市立河浦病院内に、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、「河浦教育拠点」の設置に向けた協議を行い、令和3年4月から稼働することになりました。平成27年度「玉名教育拠点」の設置、平成31年度「天草教育拠点」の設置に次ぐものであり、「教育拠点化の推進」として、第3の教育拠点病院が実現することは大きな成果であります。

本県の地域医療を取巻く状況には厳しいものがありますが、地域医療を担う医師の確保に向け、地域医療支援機構としても、(1)地域医療を担う医学生、医師の養成、(2)地域で安心して勤務しながらキャリアアップできる環境の整備、(3)地域の医療連携体制の確保に向けた支援といった取組みを更に推進していくこととしています。

今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体との連携を一層強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるよう努力してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

(令和3年3月吉日)

はじめに

はじめに

2. 地域医療支援センター長あいさつ



熊本大学病院 地域医療支援センター センター長
熊本大学病院 総合診療科 教授

松井 邦彦

平素より皆様方には、熊本県地域医療支援機構／地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座へご支援いただき、ありがとうございます。令和2年度の報告書をお送りいたします。例年のように忙しい一年でしたが、特に本年度は予定の変更を余儀なくされることが多々ありました。それぞれの場面では、検討を重ねた上での判断でしたが、関係の皆様方には大変なご迷惑をおかけすることになりました。

例年、1学年～5学年までを対象に行ってきた夏の特別地域医療実習は、新型コロナウイルス肺炎の流行に伴い時期を延期することとなりました。県内の感染者数が減少してきた冬に参加学年を1学年と5学年の最小限に抑え、万全の感染対策のもと実施目まで来ておりましたが、県内の感染者数が再び増加傾向となったため、やむを得なく中止といたしました。実習を行うことはできませんでしたが、このようなコロナ禍にある中、我々の活動をご理解いただき、ご協力予定にあった医療機関や地域の皆様には感謝を申し上げます。

熊本県医師修学資金貸与制度については、令和2年3月の時点で全対象者は82人、そのうち医師となった方々は(研修医を含め)42人となりました。第二期生の先生方は、本年度で卒業5年目が終わります。第一期生、第二期生と地域の施設で活躍される方々は増え、皆様方のご期待に、ゆっくりですが逾えることができつつあると思います。その一方で、対象者各人の将来を見据え、専門職である医師としてのキャリア支援もますます重要になってきます。

このご時世、活動が制限されることも多く、なかなか容易ではありませんが、県民の皆様のご期待に応えるために、精一杯支援していくことが我々の使命だと思っております。

最後になりますが、大学スタッフの皆様方、熊本県医療政策課の皆様方にも感謝を申し上げ、皆様には、私共今後とも引き続きのご支援とご指導を賜りますよう、お願ひ申し上げます。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院 地域医療支援センター)

松井 邦彦 センター長 総合診療科	後藤 理英子 特任助教 糖尿病・代謝内分泌科
谷口 純一 副センター長 総合診療科	高柳 宏史 特任助教 総合診療科
古賀 義規 客員研究員 (御所浦診療所 所長)	片岡 恵一郎 客員研究員 (小国公立病院 事業管理者)
松岡 大智 地域医療支援コーディネーター	大西 留美 事務補佐員
若杉 秀作 地域医療支援コーディネーター	横手 友紀子 事務補佐員
高塚 貴子 女性医師復職支援コーディネーター	

◆ 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

谷口 純一 特任教授 総合診療科	山並 美緒 事務補佐員
佐土原 道人 特任助教 総合診療科	山口 香 事務補佐員

◆ 玉名教育拠点(くまもと県北病院)

田宮 貞宏 熊本大学非常勤講師 (くまもと県北病院 副院長)	小山 耕太 熊本大学非常勤講師 (くまもと県北病院 総合診療科部長)
-----------------------------------	---------------------------------------

◆ 天草教育拠点(天草地域医療センター)

鶴田 真三 特任助教 総合診療科	松本 朋樹 特任助教 総合診療科
---------------------	---------------------

◆ 上級医

中村 孝典	武末 真希子	松田 圭史
-------	--------	-------

◆ 専攻医

北村 泰斗 専攻医3年目	永田 洋介 専攻医3年目	下地 徹 専攻医2年目
久保崎 順子 専攻医3年目	早川 香菜美 専攻医3年目	本田 宏介 専攻医1年目
空田 健一 専攻医3年目	平賀 円 専攻医3年目	

熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構は、熊本県と県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して運営を行っています。当機構では、本県における医師の地域偏在を解消することを目的として、県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関の医師を確保するため、様々な支援事業を実施しております。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業において活動の縮小を余儀なくされた面もありました。しかしながら、熊本県医師確保計画(令和2年度～5年度)に基づき、医師修学貸与学生及び地域で勤務する医師が、地域で安心して勤務しながらキャリアを形成できるよう、一人一人に対するきめ細やかな支援を行うための体制の強化を図る観点から、コロナ禍にあっても熊本県から業務を委託された事業については、熊本大学病院が県と協力し、着実な事業の実施に努めてまいりました。特に面談・相談業務やセミナー等においてウェブ会議システムを活用して移動制限の影響の最小化と効果的かつ効果的な相談業務の充実を図るとともに、地域の医療機関における取り組みや地域医療の重要性を多くの人に理解いただくために新たに広報誌を発行するなど啓発活動の充実に努めたところです。

また、専門研修に進む卒業3年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前知事指定病院の第2グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務の償還を優先することを選択できる体制を構築し、キャリア支援の充実強化を図りました。さらには、総合診療医育成のため、令和3年度から河浦病院に総合診療の新たな教育拠点を設置し、指導医を派遣することで天草市病院事業部と行為が成立し、3年度から活動することとなりました。

その他、女性医師キャリア支援においても地域を回り、地域医療に携わる女性医師と面談する中で、多くの課題や悩みを把握し、適切にかつ必要な助言を行いました。

【主な取り組み】

- ① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援
(一人ひとりの状況に応じた助言、相談対応等)
- ② 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等の医師不足状況等の把握・分析、地域で必要とされる医師に関する情報提供等
- ③ 貸与医師及び貸与学生全員に面談時に貸与制度及びキャリア形成プログラムの周知徹底
- ④ 医師が不足する医療機関への診療支援・研修医等教育支援
- ⑤ 地域で必要とされる総合診療医の育成方策に関する検討
- ⑥ 女性医師のキャリア支援(就業継続及び復職支援等)
- ⑦ 地域医療支援機構講演会開催
- ⑧ 地域医療支援機構広報誌「COCODE! (ココデ)」の発行

2. 活動報告

◆ 県内における医師不足の状況などの把握・分析

◆ 熊本県医師修学資金貸与条例の知事指定病院等の調査

1. 知事指定病院等の状況調査実施要領

熊本県医師修学資金貸与医師については、「熊本県医師修学資金貸与医師の勤務等に関する要綱」第2条に規定する知事が指定する病院及び診療所(指定病院等)に一定期間勤務することになる。また、その際、貸与医師は同要綱第3条及び第4条に定められた指定病院等にローテーションに基づき勤務することになる。

また、熊本県医師修学資金貸与医師については、熊本県地域医療支援機構では本人の希望を踏まえ、キャリア形成を支援するとともに上記ルールに沿った勤務先を協議し、大学病院各診療科や関係医療機関と調整を行うことになっている。

そのため、勤務先となる、知事指定病院等の医師の充足状況や労働環境、教育指導体制等がどのような状況かを機構としても承知しておく必要がある。また、本人が勤務する医療機関の選択における判断に資するためにも、情報を把握しておく必要がある。

そこで、昨年度(令和元年11月)に調査を実施したところであるが、本年度においても、知事指定病院等の勤務医師数、勤務条件、教育指導体制等について調査を行うこととしている。

【実施主体】

熊本県地域医療支援機構

【調査対象】

知事指定病院(31病院)、知事指定診療所(4診療所)

【調査方法】

調査票及び回答用紙を病院担当者へメールで送付し、回答後に地域医療支援機構のメールアドレス宛に返信することで回答とする。

【調査内容】

医療機関の概要、労働環境、福利厚生、教育・指導体制、医師の充足状況

【調査スケジュール】

8月中旬 調査票発送、 9月上旬 とりまとめ・分析、 10月以降 対象者への情報提供

※なお、調査資料については、熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援のために使用し、熊本大学の情報公開及び個人情報に関する規定に基づき、回答者の不利益になる内容の外部への公開はしない。

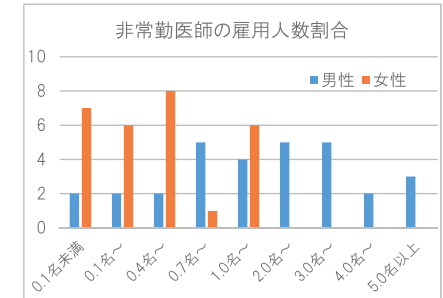
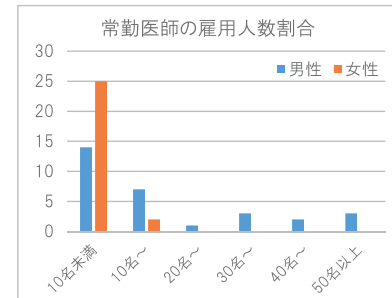
熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

2. 調査結果

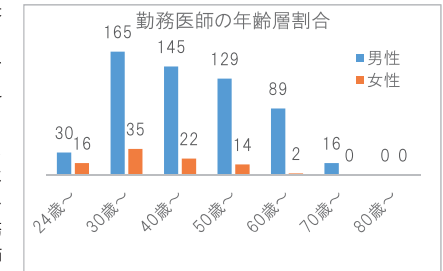
(1) 病院の概要

○ 医師の雇用状況



医師の雇用状況については、常勤医師では回答のあった全30病院で男性医師が勤務しているが、女性医師では10名未満の病院が半数以上を占めている。また、なかには少数の医師で複数の診療科を兼任しているという回答もあった。

勤務医師を年齢層別にみると、24歳から29歳まででは男性医師30名、女性医師16名と若手医師は少ないようであるが、男女ともに30歳代が最も多く、男性医師では病院全体で165名の医師が勤務している。また、70歳代で勤務している男性医師は16名という結果であった。



(2) 勤務環境

○ 当直交代制勤務について

当直体制について、1日あたりの宿直状況では「全て常勤医師で対応している」病院は6件、「応援を依頼している」病院は20件であった。また、1日あたりの日直状況では「全て常勤医師で対応している」病院は10件、「応援を依頼している」病院は19件と、全体の約6～7割の病院が常勤医だけの対応が難しい状況にある。

常勤医師1人あたりの月間平均当直回数については、月1～4回の病院が約7割、月5～9回の病院は2割、なお月10回以上となっている病院が1件であった。また、当直翌日の医師の勤務状況では、翌日を「休日としている」病院は無く、「通常勤務」としている病院が8件、「勤務内容を配慮している」が17件であった。

その他の対応状況としては、「当直翌日が平日の場合、勤務免除」や半休取得や早退を可能としている、外来診療を免除している等の対応を行っている。

常勤医1人当たり月間当直回数	件数
月1～4回	21
月5～9回	7
月10回以上	1

(3) 待遇・福利厚生

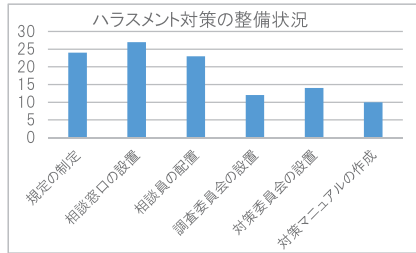
○ 住環境について

勤務医師への住環境の提供については、「家賃を伴う所有医師住宅」の提供17件、「家賃を伴う借上げ医師住宅」9件、「住宅補助制度」の利用が可能な病院が17件という結果であった。住居となる建物の提供が難しい医療機関は補助などで対応していることが窺える。

○ ハラスメント対策の整備状況

規定を制定している病院は24件、相談窓口の設置は27件、相談員の配置は23件と半数以上の病院で整備されているようである。

また、その他にも、全職員を対象とした研修の実施や、ハラスメント対策相談窓口を設置し調査及び対策を行うとしている等、多くの病院でハラスメント(パワハラ、セクハラ等)の発生、再発防止等に向けた対応策を整えている。



熊本県地域医療支援機構

○ 子育て環境

<保育環境について>

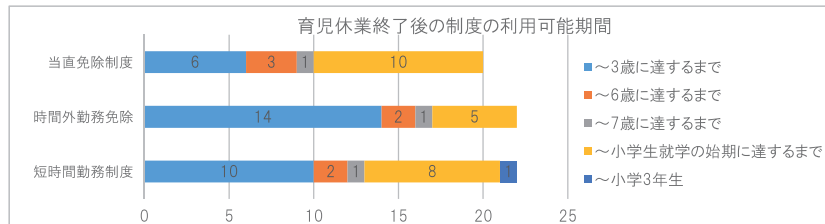
院内保育制度を設けている病院は6件、院内病児保育制度では3件であった。また、なかには、保育援助を必要としている人と、保育援助を行いたい人たちによる組織をつくり、相互援助活動に取り組んでいるという病院もあった。

<当直免除制度/時間外勤務制度/短時間勤務制度の利用について>

女性医師の妊娠期間中の制度利用については、当直免除制度の利用可能と回答した病院は24件、時間外勤務免除制度では25件、短時間勤務制度は19件、その他「具体的な制度はないが適宜対応する」という病院もあった。

また、制度の利用が可能のほか、[業務の軽減、通勤緩和、妊産婦等にかかる危険有害業務の就業制限、妊産婦の保健指導、健康診査等の対応も行っているという病院もあった。

育児休業の取得期間を終えた医師が育児支援を利用できる期間については、多くの病院が未就学児の期間(～3歳に達するまで、～6歳に達するまで、～小学校の始期に達するまで)と定めている。また、なかには7歳に達するまでの期間や、小学3学年終了前までの期間の利用を認めているという病院もあった。その他では各制度について医師が必要と認めた期間を提供するという病院もあった。



(4) 教育・指導体制

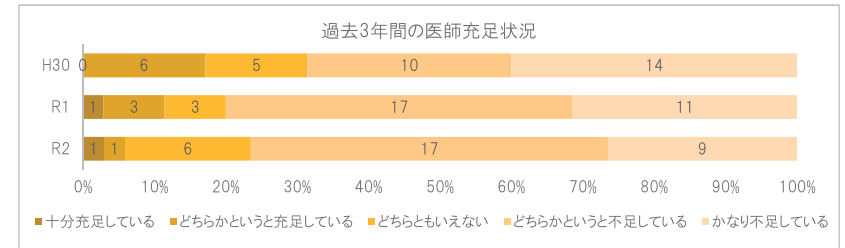
○ 医師の学会・研修会等の参加時の支援

医師の学会や研修会等への参加に対する支援の状況を見ると、参加を勤務扱いとする病院は23件、出張に係る旅費を補助している病院は27件、また、病院の規定によるものや、医師が演題発表等を行う際には参加費の補助も行っている病院も診られた。

○ 研修医・専攻医の受入

令和1年度の専攻医の受入状況では、熊本大学病院からの受入は11件(受入人数は37名)、熊本大学病院以外からは4件(11名)であった。また、過去5年間の熊本大学病院からの受入状況については、17件の病院が行っており総計223名の受入が行われた。

(5) 医師の充足状況



医師の充足状況(診療所を含む)については、過去2年(令和1年度、平成30年度)の調査結果と比較すると、「かなり不足している」と回答した病院は、平成30年度では14件、令和1年度では11件であったが、今回の調査では9件と減少がみられる。また、「どちらかという不足している」と回答した病院は前回から変化が見られない。

一方、「どちらかという充足している」と回答した病院は平成30年度では5件であったが、令和1年度では3件、そして今回は1件と年々減少している。

また、医師が不足している診療科及び不足医師数については、30病院中25病院で医師が不足している診療科があるとの回答であった。そのうち、16病院で標榜診療科には掲げていない診療科についても医師が不足していると回答している。

○ 医師確保の方法

不足している医師をどのようにして確保しているかという問いに対しては、大学医局からの医師派遣に頼っている病院が多くみられる。また、その他では下記のような方法により医師の確保を行っている。

- ・熊本県ドクターバンクへの登録
- ・医師会会員からの紹介
- ・他病院(熊本大学病院以外)からの派遣
- ・研修医の受入
- ・医師の人脈(個人的つながりや、医師間での紹介等)

確保方法	件数
大学医局からの派遣	28
ホームページ等による公募	20
医師人材斡旋業者の利用	15
県からの派遣	13
その他	7

❖ 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

熊本大学病院においては「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が複数の地域の医療施設にて下表のとおり非常勤での診療支援を行いました。

➤ 大学病院、総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	松井
			谷口(奇数週)	

➤ 外来診療支援

後藤	2020.04～2021.03 公立玉名中央病院(週1回)
高柳	2020.04～2021.03 御所浦診療所(週1回) 2020.04～2021.03 小国公立病院(週1回)

◆ 医師が循環して勤務できるシステムの構築

◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務できるシステムの構築に向けた取組み状況

○ 地域医療・総合診療実践学寄附講座の新たな教育拠点の設置

平成31年4月に天草地域医療センターに設置した天草教育拠点については、地域医療・総合診療実践学寄附講座から派遣した教員2人が専攻医・研修医の指導とともに地域医療及び総合診療に関する学生の臨床実習の指導を行っています。

◆ 遠隔診療・教育支援システム(テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等)の構築支援

1. テレビ会議システム

熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、令和2年度は国保水俣市立総合医療センター1カ所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。

また、週に1度テレビ会議システムを利用しWeb合同カンファレンスを開催しました。

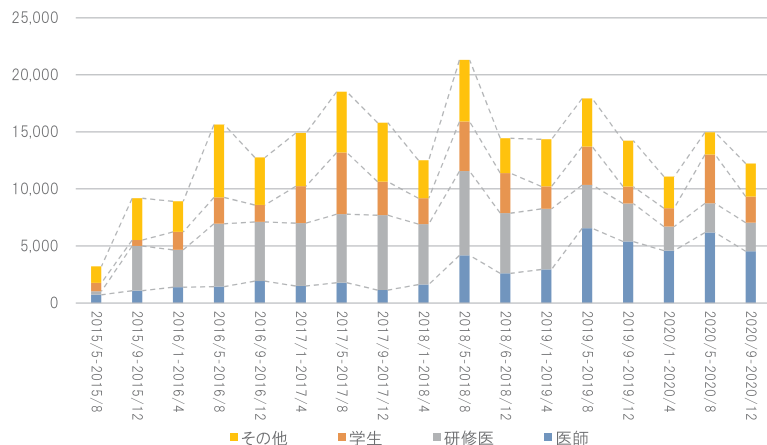
設置年度	設置場所
平成28年度	・御所浦診療所 ・湯島へき地診療所 ・そよ病院
平成29年度	・小国公立病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院
平成30年度	・河浦病院 ・阿蘇医療センター ・人吉医療センター
令和元年度	・栖本病院 ・新和病院
令和2年度	・国保水俣市立総合医療センター

2. 学習・診療支援オンラインツール

令和2年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等8名に交付し、交付者は累計で177名になりました。

また、特別臨床実習(クリクラ)を受けた76名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

▼ 学習・診療支援オンラインツール利用状況(2015年3月に導入以来、4ヶ月毎に集計)



熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

- 「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成プログラムの作成に当たって、各診療科において貸与医師が義務を果たしながらキャリア形成を図ることができるよう、県と協力して各医局との調整を行いました。また、キャリア形成プログラム周知のため、地域医療支援機構ホームページにキャリア形成プログラムを掲載するとともに貸与医師及び貸与学生全員に面談時にプログラムの周知を図るとともに、説明会(令和2年7月と令和3年2月)を実施しました。

2. 天草市立河浦病院内に地域医療・総合診療実践学寄附講座河浦教育拠点を設置検討

- 地域において求められる医療を提供しつつ総合診療医を養成するため、天草市と協議を行い、天草市立河浦病院内に令和3年4月に河浦教育拠点を設置することとなりました。本寄附講座から教員を派遣し、医師の育成・学生の教育を行うこととしています。

3. 新しいキャリア支援策の提案

- 初期臨床研修を終了した貸与医師のうち希望者に対して、専門研修プログラムへの従事に先行して、第2グループの病院で総合診療に従事し、義務を償還する「特別研修プログラム」を創設しました。

4. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

- 修学資金貸与医師への面談を通して将来のキャリア形成について、今後の勤務先の選定等についてアドバイスをしました。
- 医師については卒後1～6年次医師等42名を対象として、令和2年7月～8月の間で、現在のキャリアと今後のキャリア形成をどうするのか、また、来年度の勤務先をどこにするのか等についての面談を実施しました。
- 学生については1年生～6年生40名を対象として、令和2年5月～6月の間で、現在の学業の課題や生活上の問題等について面談を実施しました。6年生にはさらに初期研修の希望先病院等について面談しました。

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における配置ルールづくり

貸与医師が選択した全ての診療科において、キャリア形成プログラムに基づきでき得る限り早期に義務年限の償還が果たせるよう各診療科とも協議しながら配置を進めていくこととしています。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

- 医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、来年度から臨床研修予定の5名全員が県内の研修病院にマッチングしました。また、令和2年6月から7月までウェブで配信された「熊本大学病院群卒後臨床研修プログラム説明会及び専門医プログラム説明会」に参加し、総合診療科を目指す学生の掘り起こしに努めました。

2. 総合診療専門医専門研修プログラムの周知

県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。また、令和2年7月23日～8月30日までウェブで開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で、総合診療専門医研修プログラムの紹介をしました。さらに、同じくウェブで開催された熊本大学病院専門研修説明会の周知、また、7月31日と10月9日の2回で熊本大学病院所属の臨床研修医を対象に総合診療専門研修プログラム説明会を開催しました。

3. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本大学病院に1名が登録されました。

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について、熊本大学医学部新1年生(修学資金貸与学生)に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。自治医科大学1年生にも同様に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。

さらに、登録者には「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するのためのIDパスワードを交付しました。

▼熊本県医師修学資金貸与数一覧(令和3年3月現在)
在学学生40名／初期研修医19名／後期研修又は地域で勤務する医師23名
男女比は全体で6:4

区分	年数	地域枠	一般枠	県外枠	計
後期研修/ 地域勤務	6年目	-	3	-	3
	5年目	4	1	-	5
	4年目	4	4	-	8
	3年目	5	2	0	7
臨床研修	2年目	5	4	0	9
	1年目	4	6	0	10
在学学生	6年目	6	0	0	6
	5年目	7	3	1	11
	4年目	5	1	0	6
	3年目	5	1	-	6
	2年目	5	0	1	6
	1年目	5	0	0	5
合計		55	25	2	82

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆ 医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け、相談窓口を設置しています。また、地域の医療機関で働いている医師修学資金貸与医師の活動レポートの掲載や、イベントの告知及びその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミなどの機会に医学生からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体等に対しても相談対応を行いました。

◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンを発行しました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取組みを広く周知することで理解と協力を求める。
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す。
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師および医療関係者に対し、取組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

<対象>

- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体(市町村)の医療担当部署、熊本県医師会及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本県出身自治医科大学及び熊本在住の自治医科大学卒業医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者等

<発信状況>

2020年4月から2021年3月までの間で、約760名の登録者に対し3回、熊本県地域医療支援機構の取組み等を発信しました。



2020/11/17

Vol.47 「令和2年度熊本県地域医療支援機構講演会」開催のお知らせ。



2020/12/21

Vol.48 「医学生・研修医などをサポートするための会」セミナー開催のお知らせ



2021/01/04

Vol.49 「令和2年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー」開催のお知らせ

◆ 熊本県地域臨床実習支援事業の実施

県外に在住している熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につながることを目的として熊本県地域医療臨床実習支援事業(肥後ふるさと医学生実習支援事業)を平成30年度より実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら、実施を見送ることとなりました。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生／募集人数：5名以内

【事業実施期間】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施見送らせていただきました。

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として1週間以内(最低でも2日以上)／実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】

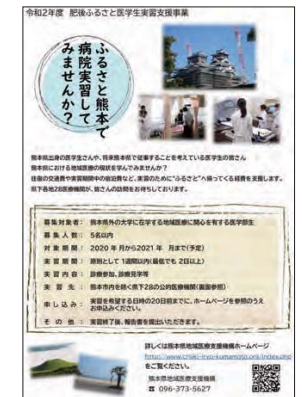
知事指定病院等のうち29の医療機関

【実習結果報告】

実習希望者は、実習終了後2週間以内に報告書を機構に提出

【事業の周知】

機構は全国の医学系大学などに本事業の周知などを図る



◆ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

1. 年間報告書を作成し、市町村・医療機関等に配布したり、機構パンフレット、広報誌を関係者等に配布したりしました。
2. 例年知事指定病院である35病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行っております。今回はそのデータを更新するとともに、勤務医や患者の状況等について新たな項目を追加して調査を行いました。(P.5参照)

◆ 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

○ 第13回熊本県地域医療支援機構理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面会議にて行いました。結果としては、協議事項全てが承認されました。

【協議事項】

1. 令和2年度(2020年度)事業実績について
2. 令和3年度(2021年度)事業計画について
3. 令和3年度熊本県医師修学資金貸与医師配置調整案について

◆ 県医療行政・市町村との連携

熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1回開催し、事業の進め方や政策推進について協議を行いました。(地域医療支援機構担当者連絡会議)

◆ 熊本大学医学部、県が設置する寄附講座、他の県委託業との連携

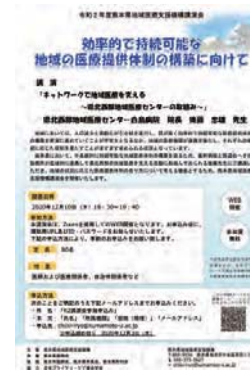
- 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏季実習をはじめ中止となった催しもありました。
- 学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。
- 熊本県医療勤務環境改善支援センターの運営会議にコーディネーターがオブザーバーとして参加するなど相互連携に努めました。
- 毎月1回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に医療勤務環境改善支援センターのセンター長、企画調整課長が出席、地域医療行政に関する情報共有を図りました。

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆ その他

◆ 熊本県地域医療支援機構講演会



2020年12月10日(木) 18:30～19:30
令和2年度熊本県地域医療支援機構講演会
「効率的で持続可能な地域の医療提供体制の構築に向けて」

地域においては、人口減少と高齢化が引き続き進行しており、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の構築を着実に進めていくためにも、地域の医療機関が連携を強化してそれぞれの機能に応じた役割を果たすことがますます求められる状況となっています。

そのような中で、岐阜県において、地域医療を支える活動に取り組んでおられる、郡上市の県北西部地域医療センター国保白鳥病院院長 後藤忠雄先生にご講演いただき、地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について考える機会として、今回の講演会を開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためZOOMによるリモート開催となりました。

● 開会のあいさつ

熊本県地域医療支援機構理事

熊本大学病院 地域医療支援センター センター長

松井 邦彦 先生

● 講演

岐阜県 県北西部地域医療センター長 兼県北西部地域医療センター国保白鳥病院長

後藤 忠雄 先生

後藤先生からは、地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について、これまでの地域医療を支えるネットワークの構築や人材育成、県北西部地域医療センター設立までの経緯など、岐阜県郡上市で中長期的に持続可能な地域医療体制を支える活動として、実践的な取り組みの経験と戦略、成果についてお話を頂き、興味深い講演内容でした。

● 閉会のあいさつ

熊本県健康福祉部健康局 医療政策課

三牧 芳浩 課長

◆ 知事の表敬訪問

2021年3月29日(月)に、令和2年度卒業の熊本県医師修学資金貸与学生6年生5名が、熊本県庁を訪れ 島郁夫 知事より激励の言葉を賜りました。また、6年生はこれから地域医療を担っていく医師としての将来の抱負等を一人ずつ述べました。



◆ 熊本県地域医療支援機構広報誌の発行

令和2年度、本機構の広報誌として、「COCODE」(ココデ)を初刊として発行しました。
「COCODE」は、熊本県内で活躍する医師などを通じて、医師を志す学生や、地域の皆さんに地域医療の魅力伝えるマガジンです。



熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆ 女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー(啓発活動)を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

◆ 相談件数

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日まで)の相談件数は、総計33件(対面5件、電話7件、メール13件)でした。

▼相談内容の内訳(延べ相談数)令和2年4月1日～令和3年3月31日現在

お留守番医師制度について	2件	復職相談	1件
働くこと働き方について	8件	メンター制度について	1件
求人との問い合わせ	6件	同僚・医局の医師について	2件
保育施設について	3件	子育てについて	0件
支援制度についての問い合わせ	5件	社会保障等について	1件
ネットワークづくり	2件	マタニティ白衣・パンツ	2件

今年度は「働くこと働き方について」「求人」に関する問い合わせの相談が多い傾向でした。

◆ 復職支援(お留守番医師制度)

週1回(場合によっては月1回も可能)から復職したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。
お留守番医師制度は、かかりつけ医が訪問診療に行く間の外来業務(お留守番医師)を復職を希望している先生方に担っていただく制度です。
「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関(現在20医療機関)と連携しています(左下図)。

▼お留守番医師制度に加入している医療機関
(2021年3月31日時点)

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかもろファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明午橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池郡市医師会立病院
宇城市	中村医院

(離職中の先生方(男性医師も利用可能))

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職支援コーディネーターが復職希望者の体験申込みを受けて在宅医療を開始したいドクターと繋ぎ体験日を決めます。体験が上手くいけば当事者同士で3か月更新の契約を結びます。この制度で勤務中には、体験時のみ熊本市医師会保育所「メディッコクラブ」が無料で利用できます。

(手続きの流れ)



why GP?

若手医師×学生二人座談会
総合診療医のリアルを直撃「教えて先輩！」

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師にぶつけてみました。

小野公立病院 総合診療科 松田直史先生
熊本大学医学部医学科5年 M.石さん
熊本大学医学部医学科2年 古畑雅樹さん

地方で最先端の医療現場で活躍していますか？
熊本県は「健康な県」を掲げ、小児科や産科で総合診療医として活躍する先生が活躍の場を拡大しています。また、熊本県は「健康な県」を掲げ、小児科や産科で総合診療医として活躍する先生が活躍の場を拡大しています。また、熊本県は「健康な県」を掲げ、小児科や産科で総合診療医として活躍する先生が活躍の場を拡大しています。

「人」を軸とした総合診療医の活躍の場を拡大する
熊本県は「健康な県」を掲げ、小児科や産科で総合診療医として活躍する先生が活躍の場を拡大しています。また、熊本県は「健康な県」を掲げ、小児科や産科で総合診療医として活躍する先生が活躍の場を拡大しています。

今年度のお留守番医師制度の体験者はいらっしゃいませんでしたが、平成28年度開始からの利用者は体験のみも合わせ7名です。

現在2名の医師が継続されています。

〈診療所の先生方〉

在宅医療に取り組みながら復職支援をすることができます。在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保に繋がり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの相互システムです(右図)。



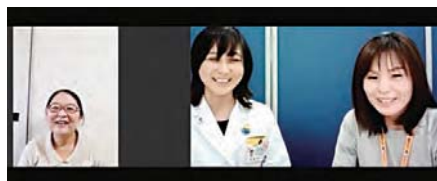
熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

○ お留守番医師制度を利用し復職された女性医師インタビュー(2020年12月14日)

*インタビュー全文は、熊本県女性医師キャリア支援センターホームページをご覧ください。

針本聡子先生(お留守番医師制度利用期間：2019年2月12日～2020年8月31日まで)



(※インタビュー映像は、令和2年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナーにおいて、お留守番医師制度利用者の事例として紹介させていただきました。)

Q お留守番医師制度に参加していただきましたが、熊本に来られるまではどのように働かれていたのですか？

平成13年卒で、ずっと関東の大学病院で消化器内科医として勤務していました。平成25年に出産し、その後お休みをして、主人の転勤のため、島根県の病院で胃カメラだけのアルバイトをしておりました。熊本への転勤が平成30年で、熊本市医師会のホームページで女性医師支援のバナーを見つけてアプローチしました。

Q 当センターのホームページに医療機関の情報も載せていましたが、どのように医療機関を選ばれましたか？

勤務先の病院を決めたのは、センターに面談に伺ってご紹介いただいた形でした。車の運転に自信がなく、また、土地勘が無かったので、掲載されている病院がどれだけ近いか、遠いか、どんな病院がよく分かっていなかったのが、直接伺って地図を広げて相談しようと思っていました。

Q お留守番医師制度の初めての体験日はどうだったですか？

安心しました。何より、今まで外来というと専門外来が主だったので、普通の外来でちゃんとお仕事が出来るのだろうかという不安もございました。そこで1回体験してみることによって、「あ、これだったら出来るかな。」と。そこでもしもの時は循環器や脳神経外科の先生が相談に乗って下さるという事も含めてですね、「良かったな。」と言う風に、仕事をする自信に繋がって、仕事を始める勇気が湧いたというか、自信に繋がったと思います。

Q コーディネーターと定期的に連絡を取り合っていましたか、どうだったですか？

いい病院で、困った事はなかったのですが、働いてみないと分からない事って色々あると思うんです。そういった時に自分から、病院に難しいとか辞めたいとか、そこまでいなくても何か交渉するというのはやはり辛かったり、そういう事もあると思うんですね、そんな中、間を取り持っていただけというのは凄く安心だと思います。

◆ マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出しサービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住の妊娠中の医師にマタニティ白衣・パンツを無料で貸出ししています。

マタニティ白衣について

- サイズはSとMがあります。
- 胸元、腰元にアジャスターがあり調節ができます。



サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	90	112	38	51
M	95	116	39	51

マタニティパンツについて

- サイズはMのみです。
- 腰元にアジャスターがあり調節ができます。
- 色はネイビーのみです。



サイズ	股間	ヒップ	股上	股下
M	85~100	102	27	68

今年度の利用者は2名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと思います。

＜利用者の感想＞
 ・お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もありお腹が目立たなかったようでした。

◆ 短時間勤務

短時間勤務制度の利用希望があった場合、専任医師と復職支援コーディネーターが代理で病院管理者もしくは診療科部長に相談することになっています。短時間勤務制度を応援してくれる勤務先を拡充する目的で、昨年度は熊本大学病院コーディネーターの会に協力していただき各医局に短時間勤務に関するアンケートを行いました。今年度は熊本県内100床以上の病院の管理者及び各診療科の部長アンケートを行い、短時間勤務制度を応援する診療科と応援メッセージを冊子にまとめウェブサイト公開にしています。

◆ 育児支援

昨年度はそよう病院「子育て勉強会」のコーディネート協力などを通して、院内で子育てを援助する仕組み「そよ風サークル」の設立に向けた必要な支援を行いました。今年度は、その設立に尽力された女性

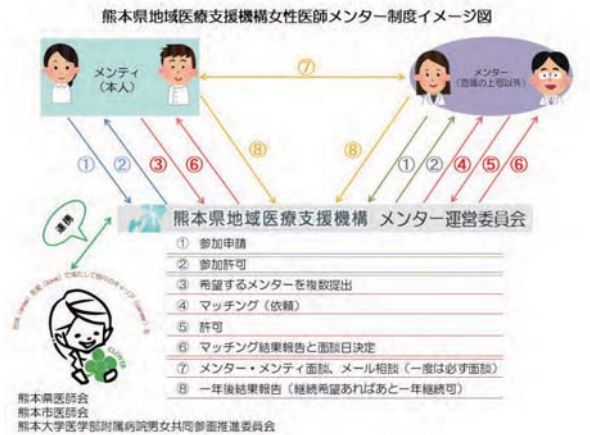
医師が現在勤務されている阿蘇郡小国町の小国公立病院において、「地域で活躍する医療人のための持続可能な育児支援システムの構築」について意見交換会を開催しました。

- 日時：令和2年7月27日(月) 17：15～18：30
- 場所：小国公立病院
- 内容：育児支援システムの趣旨・取り組みについて
持続可能な育児支援システムの構築について具体的な取り組み(そよう病院の例)
小国公立病院のスタッフの状況(周囲の保育園や学童保育について)
育児支援・介護に関する課題
若手医療人の育成

◆メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

現在、メンターとして29名の男女医師が登録しており、今年度はメンティとして1名の女性医師が登録されました。



毎年、メンター自身のスキルアップを目的に「メンター連絡会議」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催することができませんでした。そのため、今年度は地域で働く女性医師を対象にメンター・メンティ交流会を4回開催し、8名の医師にご参加いただきました。

	日時	地域	開催方法	参加者
第1回	令和2年12月9日(水)16時～	多良木	多良木病院(対面)	1名
第2回	令和2年12月18日(金)19時～	阿蘇地域	ZOOM	3名
第3回	令和2年12月23日(木)16時～	天草地域	ZOOM	1名
第4回	令和2年12月23日(木)18時～	天草地域	ZOOM	3名

地域で働く中で困っていることや、今後のキャリアの事、課題に思っている事など交流会を通してうかがった内容は県の担当者と情報共有しました。また、交流会後に1名の先生がメンティに登録されました。

今後も女性医師が働きやすい、安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図れるよう相談体制や環境作りを進めていきたいと思います。

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆クローバーセミナー



令和3年2月16日(火) 19：00～20：40 Web開催
熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー
「キャリア支援と選ばれる職場づくり」

クローバーの会(熊本県医療人キャリアサポート)では、女性医師キャリア支援の観点から、男女共同参画推進活動にも積極的に取り組んでいます。

今回のセミナーでは、熊本県における取り組みをご紹介するとともに、お留守番医師制度を利用された針本先生の体験談、現場復帰支援プログラムを基幹病院で作成された武會先生、男性医療人パパの会「ペンギンズ」を立ち上げられた中田先生より取り組みについて先生方にご講演いただきました。

参加者：40名

●開催の挨拶

熊本県地域医療支援機構理事
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授
地域医療支援センター 副センター長
谷口 純一 先生



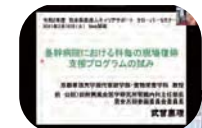
●クローバーの会活動報告

国立病院機構熊本医療センター院長
熊本県医師会男女共同参画担当理事
クローバーの会会員
高橋 毅 先生



●事例紹介

～お留守番医師制度～
針本 聡子 先生



●基幹病院における科毎の現場復帰支援プログラムの試み

京都華頂大学 現代家政学部・食物栄養学科 教授
前(公財)田附興風会医学研究所北野病院 腎臓内科主任部長
武會 恵理 先生



●大学病院で男性医療人の会『ペンギンズ』を立ち上げて～ボトムアップを目指して～

大分大学医学部附属病院 腎臓内科 特任助教
女性医療人キャリア支援センター 副センター長
中田 健 先生



●閉会の挨拶

熊本大学病院男女共同参画推進委員会 委員長
熊本大学大学院生命科学研究部小児科学講座 教授
中村 公俊 先生

<アンケートまとめ>

アンケート回答数：21名

内訳…男性：10名 女性：10名 不明：1名

医師：16名 看護師：1名 医療関係者：4名

Q 家庭と仕事の両立に葛藤を感じたことはありますか

ある：13名 ない：8名

～葛藤があると感じた方の声～

- 夕方勉強会があるのに、子供たちがご飯を待っている。勉強会に出ずに家に帰った。
- 仕事に専念し家庭をかえりみなかった。
- 子育て時期の仕事の継続、大学病院で生後6か月での当直開始は大変だった。
- 家族旅行中にも切り上げて帰院したこともしばしば。
- 昔の事で忘れてしまいましたが、かなり妻に負担をかけたと思います。
- 育児と介護が同時に重なったときは、ワークライフバランスを取るのが困難であった。
- キャリアアップの中断、子供の送迎、子供が病気の時の対応
- 夫が多忙な科であることは承知の上で結婚し、家庭と仕事の両立を考えて、マイナー科を選択。確かに定時には帰れますが、「家庭」に対する考えが甘かった。「家庭」も仕事。「家庭」の最高責任者および業務遂行者は自分なので、一人科長みたいな気分。睡眠時間以外はすべて仕事。ブラックなダブルワークです。夫は現実、家庭にいないので、物理的に家事分担、育児分担は不可能と分かっているものの、ストレスが蓄積していて、今年から管理職になり、仕事内容や責任が劇的に増えたのに、家事育児はほとんど担っており、常に疲れていて、限界だ、いやまだいける、と葛藤を繰り返しています。
- 子供が病気になった時、仕事と家事それぞれに問題が重なった時など両立に葛藤を感じました。幸い周囲に支えられて何とか続けてこられました。
- 介助を必要とする高齢の親との同居
- 子育てと介護が重なったとき

Q 職場で取り組んでいるもしくは今後必要な両立のための工夫(複数回答可)

- 上司の積極的な有給休暇の利用(1名)
- 院内保育所、託児所(6名)
- 病児保育(2名)
- 短時間勤務制度(7名)
- オンライン在宅勤務(1名)
- 職場でのサポート体制(1名)
- 男性の育児休暇取得(1名)
- 管理者教育(1名)
- 保育園との提携(1名)
- シッターや家事代行業の斡旋(1名)
- ケースバイケースで工夫は異なると思います。(1名)

Q 今後セミナーで聞きたい話(複数回答可)

- 専門医制度(4名)
- 他県のキャリア支援制度(13名)
- 子育て(1名)
- 休職経験者(4名)
- 留学経験者(3名)
- 行政(7名)

- 臨床(7名)
- 他職種での取り組み(1名)
- コーチング、リーダーシップ研修(7名)
- キャリアプラン(1名)
- 研究者(2名)
- 論文の書き方(2名)

Q 男女共同参画に関する支援について期待する事(複数回答可)

- ロールモデルの紹介(6名)
- 保育・学童支援(5名)
- 休職中の身分保障(4名)
- 復職支援(再教育)(勤務先紹介)(9名)
- 男性の意識改革(9名)
- 女性の意識改革(5名)
- 家事支援(2名)
- 無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)への気づき(1名)

Q セミナーについての意見

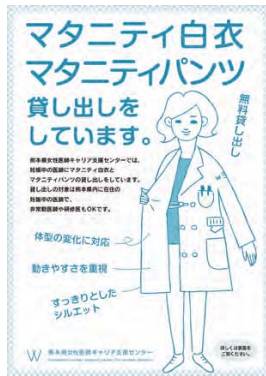
- 他県の色々な取り組みを聞いて、非常に勉強になった。
- ペンギンズなどの活動を知ることができました。
- 男性の若手の意見はおもしろかったです。
- 思ったよりアットホームな会でした。
- 周囲の協力による環境整備や本人の意思の重要性を再認識しました。
- 「男性医療人の会」というものの存在に驚きました。「Clover」も「ペンギンズ」もネーミングがいいですね。
- 楽しく拝見しました。自宅だったので妻も一緒にみて喜んでいました。制度的なものができていないといけませんが、女性蔑視の風土は根強いでしょう。
- 全国各地からの参加があり、様々な意見など聞かれ参考になりました。
- セミナーの継続・発展に期待しています。
- 歯科医師会でも女性歯科医師支援にとりかかっているが、まだ具体性に欠けるので、今回のセミナーを参考に進めていきたい
- 育児中の女性医師をいかに確保するか、大変参考になりました。
- 大分医大の男性医師からの発信は、時代の変化を感じて、大変興味深かったです。テーマとして取り上げられていただき良かったと思います。
- とても参考になるお話ばかりでした。ありがとうございました。
- 今後の継続を期待しています。

◆ 学生への啓発活動

- 1学年講義：令和2年6月15日 医学概論「男女共同参画」
- 4学年講義：令和2年7月13日 医療と社会Ⅰ「男女共同参画」オンライン講義
- 熊本県医師会主催 令和2年度 医学生・研修医をサポートするための会「地域医療とワークライフ・シナジー」

◆ 広報活動

- ホームページ、携帯サイトの運営
- ホームページでは「復職支援」「短時間勤務」「育児支援」「メンター制度」「セミナー情報」「求人情報」「マタニティ白衣の貸出」「相談窓口」「介護情報」などを掲載しています。
- Facebook及びTwitterネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- 今年度はマタニティ白衣・マタニティパンツのチラシを1000部作成(下記参照)、熊本大学病院男女共同参画コーディネーターの会、熊本大学病院各診療科、相談者や熊本県内の医療機関へ配布しました。



◆ その他セミナー



(共催)
 医学生・研修医をサポートするための会セミナー
 「地域医療とワークライフ・シナジー」
 2021年1月27日(水) 18：30～ 20：30 Web開催(地域医療ゼミとの
 合同セッション)

参加者：36名(うち医学部生：16名)

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置され、本年度が最終年度となっていました。これまでの3年間の実績に基づき、さらに延長されることになりました。

同講座は、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取組みを進めています。具体的には、熊本大学医学部医学科学生(熊本県医師修学資金貸与学生含む。)や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通じた、地域医療メインの涵養に取り組んでいます。また、今後地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、玉名と天草の医療機関に総合診療の教育拠点を設置するとともに、医師の不足する地域の医療機関に対して診療支援を行っています。

また、令和3年4月には、天草市立河浦病院に河浦教育拠点を開設することとなりました。

【主な内容】

- ① 地域医療支援(診療支援)
- ② 調査・研究
- ③ 教育活動
 - ・ 卒前教育(カリキュラム内教育)
 - ・ 卒後教育
 - ↳ 初期臨床研修
 - ↳ 専門研修
- ④ 指導医養成
- ⑤ 講演会

2. 年間活動実績

月	日	行事
5	21	令和2年度合同Webカンファレンス①
	18	令和2年度合同Webカンファレンス②
6	24	第11回レジデントデイ
	26	クリクラ第13ターム振り返り会
	16	令和2年度合同Webカンファレンス③
7	16	TMEC
	17	クリクラ第14ターム振り返り会
	31	第1回熊本大学総合診療セミナー
8	19	第12回レジデントデイ
	20	令和2年度合同Webカンファレンス④
	4	クリクラ第2ターム振り返り会
9	25	クリクラ第3ターム振り返り会
	15	令和2年度合同Webカンファレンス⑤
10	16	クリクラ第14ターム振り返り会
	19	第2回熊本大学総合診療セミナー
	30	第13回レジデントデイ
	6	クリクラ第4ターム振り返り会
11	26	TMEC
	27	クリクラ第5ターム振り返り会
	11	第14回レジデントデイ
12	17	TMEC
	18	クリクラ第6ターム振り返り会
1	15	第15回レジデントデイ
	22	クリクラ第7ターム振り返り会
	12	クリクラ第8ターム振り返り会
2	12	第16回レジデントデイ
	26	第3回熊本大学総合診療セミナー
	5	クリクラ第9ターム振り返り会
3	19	第4回熊本大学総合診療セミナー

3. 活動報告

① 地域医療支援(診療支援)

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来及び病棟診療を行いました。また、同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

② 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	松井
			谷口(奇数週)	

③ 学外診療支援

谷口	2020.4~2021.3	公立玉名中央病院(第1、3、5週)
	2020.4~2021.3	天草地域医療センター(第2、4週)
佐土原	2020.4~2021.3	公立多良木病院(週1回)
	2020.4~2021.3	山都町包括医療センターそよう病院(週1回)

④ 調査・研究

① 地域医療実習教育に関する調査研究

医学科3年次学生に対する地域医療実習(早期臨床体験実習Ⅲ)については、今年度も各受入先施設の実習計画を学生に事前提供できるよう、実習協力施設に対し実習計画調査表を送付し、実習内容の調査を行いました。

② 総合診療専門医普及に関する調査研究

「熊本大学総合診療専門研修プログラム」については、プログラムの変更申請に際し、プログラム内容の更新及び充実のため、研修内容、施設情報、指導医の有無の調査を行いました。また、総合診療専門医の特任指導医講習会の受講状況を調査し、これまで専攻医が検収した連携施設は講習会を受講済み若しくは本年度受講予定の指導医が在籍しており、総合診療専門医の研修施設の要件を満たしていることが分かりました。

③ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

県内医療機関の勤務環境について、熊本県地域医療支援機構と連携して調査・研究を行いました。調査結果は、医師修学資金貸与医師が勤務先を選択する際の資料として活用することにしています。また、熊本県女性医師キャリア支援センターと連携して、子育てと仕事の両立などに関するアンケート調査を行い、活動の方向性について検討を行いました。

教育活動

◆ 卒前教育(カリキュラム内教育)

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、今年度も、地域医療・総合診療実践学寄附講座及び地域医療支援センターに対して、医学科長からの依頼に基づき、以下の実習及び講義を行いました。

- ・1年生：早期臨床体験実習Ⅰ、医学概論※
- ・2年生：早期臨床体験実習Ⅱ、医学英語
- ・3年生：早期臨床体験実習Ⅲ、公衆衛生学
- ・4年生：医療と社会Ⅰ、総合診療学、臨床実習入門、チュートリアル
- ・5年生：特別臨床実習
- ・6年生：特別臨床実習

【1年生】

医学概論	
2020/6/15	後藤 「医師の男女共同参画とワークバランス、キャリア形成」

行動科学Ⅰ	
2020/7/6	谷口・高野 「医療における自由と制限」
2020/8/3	谷口 「コミュニケーション」

【2年生】

医学英語	
2020/11/25	小山 「プライマリケア」
2020/12/2	佐土原 「腫瘍医学」

現代社会と医学B	
2020/7/31	谷口・田宮 「地域中核病院からみた地域医療」
2020/8/7	谷口・片岡 「熊本県の地域医療について」

早期臨床体験実習Ⅰ	
2020/7/2・9	谷口 「ECE 向け準備」
2020/8/17 20・24・27	松井・谷口 「施設実習(オンライン含む)」
2020/9/24	松井・谷口 「ECEⅠ 発表会1」
2020/10/1	松井・谷口 「ECEⅠ 発表会2」

【3年生】

早期臨床体験実習Ⅲ	
2020/9/30	高柳 「オリエンテーション」
2020/11/27	高柳 「導入」
2020/11/30 -2020/12/4	高柳 「学外実習」
2020/12/4	高柳 「振り返りグループワーク」

① 早期臨床体験実習Ⅰ・Ⅱ (ECEⅠ・Ⅱ)

早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、Ⅱは2学年を対象として、6年前に改正された新カリキュラムに基づき必修科目として実施されているものであり、Ⅰは従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変えて、またⅡは3年間の早期臨床体験実習の中間に位置付けています。

早期臨床体験実習Ⅰについては、臨床医学教育研究センターが実施責任者となり、当講座が協力する形で、1年生110名に対し、8月17日・20日・24日・27日の4日間で実施されました。今年は新型コロナウイルスの影響により、例年のような施設を訪問しての実習が難しかったため、ご協力頂いた県内21施設(心身障害児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院等)の多くは、webやメールを利用して、施設概要の説明や質疑応答といった形で対応いただきました。また、実習後は、9月24日、10月1日の2回に分けてグループ毎に発表会を行いました。

なお、2月25日～3月3日に実施予定だった早期臨床体験実習Ⅱについては、新型コロナウイルスの影響により昨年度に続き今年度も中止となりました。

② 早期臨床体験実習Ⅲ (ECEⅢ)

早期臨床体験実習Ⅲは、早期臨床体験実習Ⅰ(1学年対象)及び早期臨床体験実習Ⅱ(2学年対象)に続く完結版として、また上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編として3学年を対象に必修として実施されています。

平成26年度入学の学生から適用される新カリキュラムに基づき、当講座が実施しています。

今年度は、11月30日～12月4日の5日間に渡り、県内の106医療機関の協力を得て、3年生全員(117名)が実習を行いました。また、9月30日に学生オリエンテーション、実習前週金曜日(11月27日)の午後に「導入」を行い、週明け月曜日には朝から実習を開始出来るよう日程を配慮し、最終日4日の午後からは「振り返り」を大学内にて実施した。

また、実習実施に当たっては、11月4日にオンライン(Web)にて事前説明会を開催し、その後参加出来なかった施設には後日視聴できるようYouTubeに動画をアップしました。実習受入施設のうち77施設の指導医及び担当事務の方の参加希望を頂き、実習の指導徹底を図りました。

また、今年度も学生が実習先の選定材料となるよう、事前に実習協力施設に対し「実習計画調査票」の作成を依頼し、1週間の実習計画についての調査・聞き取りを行い、学生に開示しました。

● 早期臨床体験実習Ⅲ 指導医ワークショップ

【日時】 2020年11月4日(水)

【開催方法】 Zoomによるオンライン開催(後日YouTubeによる動画も公開)

【内容】 実習概要・目的について、ログブック・評価について、実習詳細について

【4年生】

医療と社会	
2020/6/24	谷口・下地「医療人類学」
2020/7/13	後藤・蓮沼「男女共同参画」

総合診療学	
2020/4/21	谷口「医療面接」
2020/4/28	佐土原「身体診察概論」
2020/5/12	佐土原「臨床推論概論」
2020/5/19	高柳「臨床推論演習1」
2020/5/26	高柳「臨床推論演習2」
2020/6/2	鶴田「臨床推論演習3」
2020/6/9	松本「臨床推論演習4」
2020/6/16	松井「総合診療概論」

公衆衛生学	
2020/6/25	中本「地域保健、地域医療②」
2020/6/25	佐土原「地域保健、地域医療③」
2020/6/26	鶴田「保健・医療・福祉・介護の仕組み③」
2020/6/26	高柳「予防医学と健康維持増進③」

【5年-6年生】

特別臨床実習(クリニックラークシップ)	
< 授業の目的 >	
診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標とする。	
< 授業の概要 >	
現在、5学年の7月から6学年の9月までの全13ターム(1タームは3週間)で実施されている特別臨床実習において、当講座は、平成26年度から地域医療を提供している。	

チュートリアル実習	
2020/10/14	谷口「補足講義」

臨床実習入門	
2020/10/19	高柳「医療面接」
-2020/11/12	

プレ臨床実習	
2020/11/30	谷口「電子カルテ実習」
-2020/12/4	

▼各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療*」における学生受入人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	7	21
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	9*	43
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	11	35
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	7	45
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	8	46
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	1	16
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	2	18
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	4	39
9	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	7	32
10	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	12	82
11	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	9	39
12	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	9	33
13	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	11	31
14	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	10	31
15	公立玉名中央病院(クリニック総診のみ)	--	--	5	17	16	4*	15*	8*	68
合計		12	30	54	42	42	106	138	115	579

R2年度の地域医療はインタビュー実習等を含む
*クリニック総合診療科実習も含む

◆特別臨床実習：地域医療

5学年夏から6学年秋までの全13ターム(1タームは3週間。12タームまでは5・6年次の必須科目。14タームは6年次の選択)で実施される特別臨床実習において、当講座は平成26年度から地域医療を提供しています。

今年度は県内の14医療機関の協力、6年生は昨年度から引き続き4ターム(選択含む)を行い、5年生は6月から9ターム分を実施し、5・6年生の107人に対し地域医療実習を提供しました。毎ターム最終金曜日の15時より、各施設で実習を行った学生を集めての振り返り会を行いました。

また、6月には5学年のガイダンスにて学生向けの説明会をオンラインにて実施しました。

▼2020-2021年度 特別臨床実習「地域医療」の受け入れ人数

No.	実習受入先	前期										今期					合計		
		11	12	13	14	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
		2019 4/20- 5/15	2019 5/18- 6/5	2019 6/8- 6/26	2020 9/28- 10/16	2020 6/29- 7/17	2020 8/17- 9/4	2020 9/7- 9/25	2020 10/19- 11/6	2020 11/9- 11/27	2020 11/30- 12/18	2020 1/4- 1/25	2020 1/25- 2/12	2020 2/15- 3/5					
1	阿蘇医療センター																		5
2	天草地域医療センター																		6
3	荒尾市民病院																		9
4	小国公立病院																		6
5	上天草総合病院																		6
6	菊池郡市医師会立病院																		1
7	御所浦診療所																		2
8	そよう病院																		2
9	公立多良木病院																		6
10	人吉医療センター																		11
11	水俣市立総合医療センター																		7
12	山鹿市民医療センター																		6
13	熊本総合病院																		9
14	熊本労災病院																		8
	学内*(インタビュー実習等)	10	10	3															23
	合計	10	10	10	2	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	107

*新型コロナウイルスの影響により学内にてインタビュー実習、ZOOM講義等を実施

▼診療所・病院のスケジュール例

人吉医療センター					
	月	火	水	木	
1 週目	オリエンテーション 総合診療・救急センター 総合診療	キャンサーボード 小児科	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 訪問看護 訪問診療	五木村診療所	外科合同カンファレンス 総合診療 救急センター 訪問診療
2 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 総合診療 救急センター	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 選択診療科での実習	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習	外科合同カンファレンス 訪問診療
3 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 選択診療科での実習	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 総合診療・科学療法外来 訪問看護またはリンパ浮腫 外来	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習 総合診療・救急センター	外科合同カンファレンス 総合診療・救急センター えとめ

選択診療科：
小児科、産婦人科、代謝内分泌内科(外来)、外科、
整形外科、その他希望診療科

御所浦診療所					
	月	火	水	木	
1 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横溝へ移動 府外実 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/ 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横溝へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
2 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横溝へ移動 府外実 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/ 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横溝へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
3 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横溝へ移動 府外実 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/ 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横溝へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り(個人で)その後、 総括

◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、1チーム3週間の選択実習を行いました。

今年度より、大学病院、玉名教育拠点の他に天草教育拠点での実習も始まりましたが、新型コロナウイルスの影響により、2つの教育拠点での実習が難しい状況が続き、大学病院での実習に変更して実施しました。大学病院17名、玉名8名、天草1名の合計26人に実習を提供しました。

公立玉名中央病院					
	月	火	水	木	
1 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
2 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
3 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 ジャーナルクラブ	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修

◆ 卒業教育

① 初期臨床研修

熊大病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科(大学病院)及び総合診療科(玉名拠点)を選択した初期臨床研修医3人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

また、2021年度からは新たに総合診療科(天草拠点)での研修を選択できるようになる予定です。

施設名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ 総人数
熊本大学病院													
公立玉名中央病院 /玉名教育拠点							1	1			1	1	4

② 専門研修

熊本大学総合診療専門研修プログラムの専攻医8名に対し教育指導を行い、県内の公的病院において昨年より引き続き研修を行いました。

研修の支援・指導の充実を図るためテレビ会議システムを活用し、症例検討を遠隔で指導する「合同Webカンファレンス」を5回開催するとともに、専攻医の研究発表をテレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。

また、今年はZoomを用いて個人面談の頻回の実施と、例年よりも多くのレジデントデイを開催(6回)し、専門研修の進捗状況の確認・ポートフォリオの作成指導などを行いました。

2018年度研修開始の専攻医に関しては、4名が修了の見込みで2021年9月に行われる初の総合診療専門医試験を受験予定です。

本年度のプログラムへの応募状況は、他領域から総合診療領域に転科した専攻医が1名採用されました。

● 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。

熊本大学病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。

また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生(地域枠入学者を含む)や、熊本県出身の自治医科大卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

● 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修、その他の領域別研修で構成されます。その他の領域別研修は自分のキャリアに合わせて自由に調整可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ(診療所・中小病院)	6ヶ月以上	合計 18ヶ月以上
	総合診療Ⅱ(病院総合診療部門)	6ヶ月以上	
領域別研修(必修)	内科	12ヶ月以上	
	小児科	3ヶ月以上	
	救急科	3ヶ月以上	
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc...	希望に応じて	

▼総合診療研修・必修領域研修機関一覧

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	河浦病院	栖本病院	
	そよう病院	公立多良木病院	新和病院	沢田内科医院	
総合診療Ⅱ	安成医院	御所浦診療所	椎原診療所	湯島へき地診療所	
	熊本大学病院	熊本医療センター	上天草総合病院	公立玉名中央病院	
内科	熊本大学病院	天草地域医療センター	水俣市立総合医療センター		
	公立玉名中央病院	上天草総合病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
小児科	熊本総合病院	くまもと森都総合病院	熊本赤十字病院		
	阿蘇医療センター	公立玉名中央病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
救急科	熊本大学病院	熊本医療センター	公立玉名中央病院	人吉医療センター	
	天草地域医療センター				
その他の領域	外科	そよう病院	公立玉名中央病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
		熊本大学病院(消化器外科)	熊本大学病院(乳腺・内分泌外科)	熊本総合病院	山鹿市民医療センター
	産婦人科	人吉医療センター	熊本総合病院	天草中央総合病院	
	整形外科	公立玉名中央病院	天草地域医療センター	熊本大学病院	熊本総合病院
	皮膚科	公立玉名中央病院			
	泌尿器科	公立玉名中央病院	天草地域医療センター	熊本総合病院	
	放射線科	公立玉名中央病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	天草中央総合病院
	精神科	熊本医療センター			
	麻酔科	公立玉名中央病院			
	リハビリテーション科	公立玉名中央病院			
	臨床疫学	熊本大学病院			

◆ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース(例)

卒業(年目)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ	第2グループ	第2又は第3グループ		後期研修(義務内)	義務年限終了
② 勤務(研修)先医療機関候補	臨床研修 県内の基幹型臨床研修病院		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター		阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院	第2グループの医療機関	第2又は第3グループの医療機関		県内の医療機関	
③ 義務償還期間(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	

【備考(総合診療)】

- 第1～3グループ、後期研修(義務内)の順序は入れ替え可能です。
- 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。
- 研修先及び勤務先は、県内の各地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議、決定します。

2. 本年度研修終了した専攻医の研修実績

専攻医①の研修ローテート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	人吉医療センター 消化器内科 内科研修		人吉医療センター 総合診療科 総合診療Ⅱ研修			人吉医療センター 小児科 小児科研修			人吉医療センター 総合診療Ⅱ研修	公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修		
2年目	公立玉名中央病院 総合診療科 内科研修				公立玉名中央病院 整形外科 その他領域研修		公立玉名中央病院 皮膚科 その他領域研修		公立玉名中央病院 循環器内科	公立玉名中央病院 消化器内科 内科研修		
3年目	公立多良木病院 総合診療科 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

専攻医②の研修ローテート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修											
2年目	公立玉名中央病院 循環器内科 内科研修		公立玉名中央病院 小児科 小児科研修			公立玉名中央病院 消化器内科 内科研修		公立玉名中央病院 整形外科 その他領域研修	公立玉名中央病院 代謝内科 内科研修	公立玉名中央病院 皮膚科 その他領域研修		
3年目	熊本赤十字病院 内科 内科研修						安成医院 総合診療Ⅰ研修					

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

専攻医③の研修ローテート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	公立玉名中央病院 総合診療科 内科研修						公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修			公立玉名中央病院 小児科 小児科研修		
2年目	天草地域医療センター 循環器内科 内科研修	天草地域医療センター 内科 内科研修					天草地域医療センター 総合診療科 総合診療Ⅱ研修					
3年目	御所浦診療所 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

■ 研修施設一覧 令和2年度

1 くまもと森都総合病院	13 河浦病院
2 熊本赤十字病院	14 御所浦診療所
3 熊本大学病院	15 栖本病院
4 熊本医療センター	16 天草地域医療センター
5 沢田内科医院	17 天草中央総合病院
6 熊本総合病院	18 上天草総合病院
7 八代市立椎原診療所	19 湯島へき地診療所
8 人吉医療センター	20 新和病院
9 公立多良木病院	21 山鹿市民医療センター
10 公立玉名中央病院	22 阿蘇医療センター
11 安成医院	23 小国公立病院
12 水俣市立総合医療センター	24 そよう病院



4. 専攻医の声

北村 泰斗 先生（専攻医3年目）

本年度は、前半は安成医院へお邪魔して家庭医療を学ばせて頂きました。後半は公立玉名中央病院・くまもと県北病院にて熊本大学総合診療専門研修プログラムでの3年間の総まとめとして、これまでの経験を活かしながら、さらにさまざまな経験を積ませて頂きました。この1年間は、改めて振り返ってみても、新型コロナウイルス感染症の影響を色濃く反映する1年間でした。安成医院では、本来の家庭医療に加え、発熱対応（PPE着用方法、動線の確保、検体採取方法など）、郡市医師会による新型コロナウイルスLAMP法検査所の立ち上げ、町民の皆さんへZOOMを用いた新型コロナウイルスについてのサロンを行うなど、さまざまな初めてを体験させていただきました。後半の半年は、これまでの経験が生かせる部分とまだ自分に足りない部分が明瞭になり、今後に生かせる半年であったと思います。熊本大学総合診療専門研修プログラムで3年間総合診療医を経験させて頂いて、少しずつ総合診療科としての役割、醍醐味、今後自分がやってみたいことなどがイメージできるようになってきたかなと思います。とてもとてもおもしろくて、あっという間の3年間でした。皆様、ご迷惑おかけ致しました。本当にありがとうございました。

久保崎 順子 先生（専攻医3年目）

令和2年度は、前半の半年間は病院総合医としての研修として熊本赤十字病院の総合内科にて勤務しました。日赤病院の内科は感染症内科、腎臓内科、リウマチ科、腫瘍内科も含まれ、その専門の先生方のご指導のもと、今までの腎不全の透析導入や、膠原病の初診から治療までの経過、癌の治療や、緩和ケアなど、今まで経験する機会が少なかった症例を診ることが出来ました。優秀な若手の先生方の働きぶりにも非常に刺激を受けました。新型コロナ流行も重なり、より多忙さが増していた感もありましたが、とても良い経験となりました。

後半の半年は、プライマリケアの研修として、玉名市玉東町の安成医院で勤務しました。外来と、施設への往診、在宅診療を行いました。高齢の患者さんが多いため生活習慣病の他に、腰痛や肩痛などの症状を見ることが多い中、総合病院に紹介しなければならぬ重篤な症例もしばしばありました。日々の外来では、非薬物的治療として、食事、運動の指導や、禁煙指導を行いました。プライマリケア医として重要な予防医療を実践することが出来、とても有意義な研修となりました。

この1年では環境を変えたことで、医師としての自分の成長を実感し、また、まだまだ足りない点も多く自覚することになりました。来年度も志高く頑張りたいと思います。

空田 健一 先生（専攻医3年目）

総合診療科の専攻医3年目のプログラムとして、御所浦に来て住んでみると想像していた以上に働く環境も自然の環境もよいところでした。御所浦では、釣り道具をたくさん購入しました。診療では、患者さんの生活習慣改善に取り組むことが多く、困難な場面を経験しました。たとえば禁煙について取り組むと雰囲気が悪くなったり、都合よく解釈されたり、うまくいかない場面が多く、禁煙指導の技術の奥深さを感じるとともに自分自身の成長につながったように思います。振り返ってみると私自身もこの3年間で自分自身に都合よく解釈した場面を思い出しました。上級医の先生方には多大なご迷惑やストレスをおかけしてきたことを心よりおわび申し上げます。できなかったことも多々ありますが、今はコロナのせいにさせてください。今後も皆さまに信頼していただける医師を目指し、しっかりと勉強していきます。今後ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

永田 洋介 先生（専攻医3年目）

今年度は専攻医3年目として、公立多良木病院総合診療科の研修を行いました。救急外来から慢性疾患の外来管理、診療所と引き続き幅広い経験をしました。地域で暮らす方々の健康を管理することはまさに総合診療そのもので、患者さんの社会的背景も含めて多面的に考えることの重要性を学びました。時には解決が難しい問題もありましたが、週に1度の上級医とのカンファレンスを通じて問題を解決し、十分なサポートの元仕事に従事することが出来ました。その他、研修日を利用し、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡の手技を身につけ地域医療に従事しながらも高度医療や各科専門医による治療も同時に学ぶことが出来ました。今後も引き続き日々成長出来るように充実した研修を続けたいと思います。

早川 香菜美 先生（専攻医3年目）

現在は天草の河浦病院で勤務しており、外来、病棟、訪問診療と多岐にわたり診療に携わらせていただいています。

今特に力を入れていることは、在宅医療です。河浦病院は本年度在宅医療サポートセンターに認定されたこともあり、院内に在宅医療部門を設立しました。訪問診療、訪問リハビリに加えて、訪問看護も新たに始めることになりました。院内には在宅医療に関して精通したスタッフがいなかったため、勉強会などを開催するなどスタッフ一丸となって取り組んできました。来年度から正式にスタートすることが決まり、何とか準備は完了したのではないかと考えています。来年度は病院を異動することになり、実際の診療に関われないのが少し残念です。

まだまだ未熟であり、他先生方やコメディカルの方、地域住民の方々に支えられながら日々診療を行っています。そんな方々に恩返しができるように自分にできる限りのことをやっていきたいと思っています。

平賀 円 先生（専攻医3年目）

令和2年度は、総合診療Iプログラムの球磨郡公立多良木病院内科・総合診療科で専門研修をしています。多良木病院以外にも五木村診療所や人吉医療センター救急外来でも診療を行い、地域医療にどっぷりと浸かっています。

今年度はCOVID-19の話題が多くを占めますが、最も印象的なのは7月豪雨災害でした。7月4日、当院近くの川も氾濫寸前。深夜に球磨村の被災施設から40人もの患者が一気に当院に搬送されました。保険証やお薬手帳など情報が何も無い、帰る家が無い、転院するにも病院が被災しているなど、日常では直面しない問題にも数多くぶつかりました。水害から半年以上経った今でも復興はほとんど進んでないように思います。また災害がいつ発生するか分からないこのご時世では、防災や災害医療に関する知識も必要不可欠なのだと感じました。

次年度は専門医取得が直近の目標です。また、研修医教育・学生教育、救急隊との連携なども自分のテーマとして勉強していきたいと考えています。

● 本田 宏介 先生（専攻医1年目）

2020年度から専攻医研修プログラム開始の本田宏介と申します。

私は最初は他科に進もうと思っていたのですが、研修医2年次の研修時に、真夜中でも熊本市内から駆けつけ急変時の対応を長時間教えてくださった田宮先生、医学科6年次のクリニカル・クラークシップの時に大変お世話になった小山先生、毎日遅くまで指導して下さり総合診療科に熱心に誘って下さった中村先生、土日の多くも患者さんの状態を診に来院されていた武末先生の姿勢に感銘を受けました。最後は小山先生と中村先生の存在が大きく、総合診療科に決めました。

2020年4月から公立玉名中央病院で総合診療科専攻医1年目としての勤務が始まりました。救急外来、病棟、初診外来のどれも大変勉強になりましたが、基本的に一人で行う初診外来は苦勞しました。あらかじめ他院からの診療情報提供書を読み、朝のカンファレンスである程度の方針を話し合いましたが、それでも実際に患者さんからの話を聴くと新情報が出て来たり、入手した情報とは異なることもあったりと臨機応変な対応力が必要でした。どの先生方にも丁寧に指導いただきましたが、中村先生、草野先生には特にお世話になりました。救急外来では毎回、田宮先生、小山先生、中村先生、武末先生、草野先生にサポートに入っていたが、重症症例の時も大変心強かったです。病棟業務は先生方のみならず、全ての病棟スタッフの方々のお世話になりました。

10月からは熊本大学病院の救急・総合診療部勤務となりました。大学病院という環境の特性もあり、実際に診療する患者数は公立玉名中央病院の救急外来より少なかったのですが、その分、じっくりと考えながら診療できました。お世話になった先生方が多すぎて書ききれないのですが、総合診療科の松井先生、谷口先生、佐土原先生、高柳先生、救急部では救急専門医の入江先生、田中先生を初め多くの先生にご指導いただきました。診療以外の日常業務では、救急部では藤井さん、総合診療科では山並さんを初め多くの方々のお世話になりました。

公立玉名中央病院、熊本大学病院、どの先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。あと半年大学での研修が残っています。総合診療科と救急部で、これまで以上に頑張っていきます。

◆ 指導医養成

◆ 熊本大学総合診療指導医養成プログラム

■ プログラムの概要

このプログラムは、熊本大学が提供する独自の指導医養成プログラムになります。大学という教育・研究機関が提供するプログラムである特色を活かして、個別のニーズに合わせて総合診療・家庭医療の臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも積むことができることが特徴です。内容は専門医を取得してから最初の専門医更新までの5年間の教育に特化しており、主に卒後5年目から卒後12年目の若手医師を対象にしたプログラムです。更には、医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験ができ、連携機関も県内多数に存在するため、多彩な診療能力をニーズに応じて学ぶことができます。

また、指導医の資格を取得後の様々なキャリアに即し、特にSpecial Interestを深められるように自由選択性の研修を2年ほど取り入れています。Special Interestの領域については、各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう熊本県内の医療機関で研修が開始できるように熊本大学が全面的にバックアップしていきます。

■ プログラムの対象者

1. 専門医機構における総合診療研修の指導医条件に該当する、または令和3年度から該当となる予定の方
2. 卒後5年目～卒後12年目の方

■ 研修期間(5年間)

1. 指導医養成基盤研修（3年ほど）
 - ・ 総合診療研修施設(病院総合医・家庭医)での指導医研修
 - ・ 1年程度の大学教員(医員待遇)研修
2. 自由選択制研修（2年ほど）
 - ・ 個別のニーズに合わせて選択式の研修
 - ・ Special Interest研修
 - 例) 各種専門研修、開業・開業準備、留学等
 - 各専門研修には、例えば、救急や緩和医療、在宅医療、などを準備しています。



■ 研修後のキャリアについて

指導医養成プログラムでは、世界水準の質の高い指導医を1つのゴールとして、総合診療の指導医習得および、家庭医・病院総合医としてのブラッシュアップ、Special Interestの選択(専門医機構の今後の動向に合わせ検討)など、有意義な経験を積んでいただければと思っています。もちろん、指導医になることがゴールではなく、指導医習得後も更なるキャリア形成の機会を提供したく思っています。具体的には、指導医として地域医療従事、国内外の留学、大学院への進学、大学教員、開業(新規・継承)などがあると考えています。

また、このプログラムは、県の医師就学金貸与制度や自治医大の卒後研修など9年間の義務年限がある方々にとっても義務の研修を実施しながら、キャリア形成が可能で、義務終了後の次のキャリアにも結びつけることができる研修であるのも特徴です。



講演会

主催 第1回 熊本大学総合診療セミナー「熊本大学総合診療プログラム説明会 2020」
2020年7月31日(金) 19:00~20:00



- プログラム責任者より
(熊本大学病院 救急・総合診療部 教授 松井 邦彦)
- 指導医によるプログラム説明
(熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授 谷口 純一)
- 専攻医による研修内容説明
(公立玉名中央病院 総合診療科 中村 孝典、専攻医3年目 平賀 円、北村 泰斗、専攻医1年目 本田 宏介)
- 質疑応答

学生・初期臨床研修医の皆さんに多数のご参加をいただきました。
ありがとうございました！

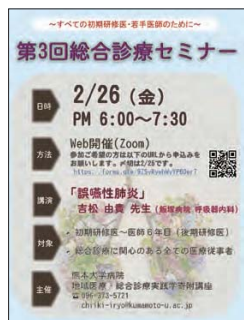
主催 第2回 熊本大学総合診療セミナー「第2回 熊本大学総合診療プログラム説明会 2020」
2020年10月29日(月) 19:00~20:00



- プログラム責任者より
(熊本大学病院 救急・総合診療部 教授 松井 邦彦)
- 指導医によるプログラム説明
(熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 佐土原 道人)
- 専攻医による研修内容説明
(熊本大学総合診療専門研修プログラム 専攻医3年目 空田 健一)
- 質疑応答

学生・初期臨床研修医の皆さんに多数のご参加をいただきました。

主催 第3回 熊本大学総合診療セミナー「誤嚥性肺炎」
2021年2月26日(金) 18:00~19:30



飯塚病院 呼吸器内科
吉松 由貴 先生

ZOOMによるWeb開催で、県内外から総勢116名の申込みをいただき、活発な意見交換も行われ、大変なめになったという声を多数いただきました。



主催 第4回 熊本大学総合診療セミナー「家族志向のプライマリ・ケア」
2021年3月23日(火) 19:00~20:30



三重大学医学部 亀山地域医療学講座
教授 若林 英樹 先生

ZOOMによるWeb開催で、43名の先生方にご参加いただきました。

セミナーでは、家庭医療／総合診療で求められる家族志向のケアに関する理論や実践について実際の症例をご提示の上でご講演いただきました。そのような複雑な症例だけでなく、通常の診療の中でどのように家族システムの視点を取り入れているかなど実践に即した内容もありました。また質疑応答の時間では、電子カルテ上で家族図が描いて保存できない場合の対応策なども双方向に協議することができました。

その他

地域医療・総合診療実践学寄附講座のホームページをリニューアルしました。
<http://www.chikiriyo-kumamoto.org/dcfgm/>

